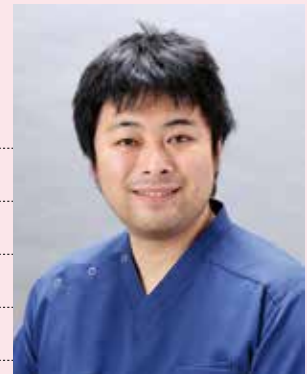




肥満症と当院での治療

内分泌代謝内科

得能 翔太



肥満（BMIが $25\text{kg}/\text{m}^2$ 以上）で、肥満による11種の健康障害（合併症）が1つ以上あるか、健康障害を起こしやすい内臓脂肪蓄積（臍レベルのCT画像による内臓脂肪面積 100cm^2 以上）がある場合に肥満症と診断されます。肥満症の診断にあたっては、原疾患の対応が必要となる二次性肥満をまず除外することが必要です。肥満症は減量による医学的治療の対象になり、BMIが35以上の場合、高度肥満症となります。高度肥満症は高度でない肥満症と比べて特有の病態を有し、予後も異なるため区別して管理することが重要です。当院は肥満症治療薬ゼップバウンドが使用できる県内でも数少ない病院のひとつであり、本格的な肥満症の精査、治療が行えます。肥満症が疑われる方で、薬物療法の必要な高血圧、脂質異常症又は耐糖能障害（2型糖尿病、耐糖能異常等）のいずれかを有し、食事療法・運動療法を行っても十分な効果が得られず、次のいずれかに該当する場合、ゼップバウンドの適応となる可能性があります。

- (1) BMIが $27\text{kg}/\text{m}^2$ 以上であり、2つ以上の肥満に関連する健康障害を有する。
- (2) BMIが $35\text{kg}/\text{m}^2$ 以上。
- (3) 中等症以上の閉塞性睡眠時無呼吸症候群かつBMIが $27\text{kg}/\text{m}^2$ 以上。

これらの条件に該当する患者さんでゼップバウンド療法に興味のある方や、2次性肥満が疑われる方は当院の内分泌代謝内科に紹介していただければ幸いです。



7月地域連携の会開催報告



7月1日にANAクラウンプラザホテル富山において、院外の先生方58名、地域医療機関のコメディカルスタッフの方4名、院内から26名が参加して地域連携の会が盛大に開催されました。

会の冒頭に院長より当院の最近の診療のトピックスの紹介があり、その後、日本医師会常任理事の佐原博之先生より『医療DXの適切な推進に向けて』と題して講演がありました。国策として推進の方向にある医療DX (Digital Transformation) について、DXの基礎的な内容から、医療DX推進の具体的なスケジュール、推進にあたっての問題点も含め、わかりやすくお話しいただきました。今後医療人材の不足が懸念される中で、適切に医療DXを進めることは、医療体制の維持にとっても重要なことではないかと思われました。講演の後懇親会が行われ、会場のあちこちで会話が華が咲き、賑やかな会となりました。今後当院の医師と院外の先生方がさらに緊密に連携を取り、地域連携を推進していくための有意義な会であったと思われました。

医療DXの適切な推進に向けて

公益社団法人 日本医師会 常任理事

佐原 博之 医師

DX (Digital Transformation) とは、デジタル技術によって、社会を「変革」することである。医療分野における変革を議論する際、「何をどう変えるのか」が論点となる。現在の日本の医療制度には課題も多いが、先人の努力により国民皆保険という世界に誇る制度が築かれた。この制度を未来の



世代に繋げることが、今を生きる我々の世代の責務であり、医療DXはそのための手段である。

国は、「医療DXの推進に関する工程表」に従い、①マイナンバーカードと健康保険証の一体化、②全国医療情報プラットフォームの構築、③電子カルテ情報の標準化を進めている。

医療DXを適切に推進するためには、目的を明確にする必要がある。適切な社会保障費の中で、医療の質を向上させ、なおかつ医療従事者の負担を減らし、余裕を持って患者に寄り添えるよう医療現場を変革することが、医療DXのゴールであると考えます。

スピード感は重要だが、拙速に進めて医療提供に混乱・支障が生じては本末転倒である。有効性・安全性を確保したうえで、利便性および効率性の実現を目指すべきである。ICTインフラ整備やセキュリティ対策等の費用は、国が責任をもって負担すべきであり、デジタル化に対応できない医療現場が多い実態を念頭に置き、慎重に進める必要がある。その一方で、未来の世代のために、「今やるべきこと」を確実に実行することも、我々の世代が果たすべき責務である。

演者抄録、文責 大田 聡

「医療DXのゴール」の定義

医療DXのゴールは、
デジタル技術を駆使することによって、
国民皆保険と地域医療を守るとともに、
より安全で質の高い医療を実現し、
医療従事者の負担を軽減して、
余裕を持って患者に寄り添うことができるよう
医療現場を変革することである

2022-2023 日本医師会医療IT委員会答申より

医療DXの適切な推進に向けて

- ・スピード感は重要だが、拙速に進めて医療提供に混乱・支障が生じては本末転倒であり、**有効性と安全性を確保したうえで、利便性と効率性の実現を目指すべき**
- ・医療DXのインフラの整備・維持、セキュリティ対策にかかる費用は、補助金や診療報酬上の加算などで**国が責任をもって全額を負担すべき**
- ・デジタル化に対応できない医療現場がまだまだ多いことを念頭に置いて、現場の不安を払拭し、**混乱と支障がないように慎重に進めるべき**
- ・その一方で、未来の世代のために、**今やらなくてはならないことを確実に実行すべき**
- ・医療現場のデジタル化を進めた結果、**余裕を持って患者に寄り添うことができるよう医療現場を変革することが、医療DXのゴールである**と提唱したい

2022-2023 日本医師会医療IT委員会答申より

研修・講演・学習会のご案内



1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

日時：9月8日（火） 19：00～20：00

場所：当院3階 講堂

内容：

1）症例検討

『経尿道的水蒸気治療（WAVE）により尿道カテーテル管理を離脱できた一例』

泌尿器科 新澤 玲

2）ミニレクチャー

『糖尿病と合併症』

内分泌代謝内科 得能 翔太

主要国において本邦は、他国と比較して高齢化が進行している。超高齢社会となって久しい本邦では、高齢者糖尿病も今なお増加傾向である。2019年に行われた国民健康・栄養調査では70歳以上の男性で26.4%、女性で19.6%に糖尿病をみとめている。以上より糖尿病はより一般的な慢性疾患となっている。糖尿病は1度発症すると寛解することはあっても治癒することはない。また、糖尿病を発症すると様々な合併症を引き起こす可能性がある。

そのため、糖尿病予防戦略として適切な食事療法、具体的には食物繊維は20g/日以上、アル

コールは25g/日以下、食塩は男性7.5g/日、女性6.5g/日未満を心がける。運動療法は有酸素運動をベースに可能であれば、レジスタンス運動を組み合わせる。有酸素運動では、中等度の運動強度（楽～ややきつと感じるくらい）で、週に150分かそれ以上、週に3回以上を目標とする。レジスタンス運動（腹筋、ダンベル、腕立て伏せ、スクワットなど）は、5種類以上、連続しない日程で週に2～3回を目標に実施する。歩行やレジスタンス運動が困難ならエアロバイクや水中ウォーキング、バランス運動なども有効である。

予告 10月の予定は下記のとおりです。ご参加をお待ちしております。

日時：10月13日（火） 19：00～20：00（ハイブリッド開催）

場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 1例（担当）精神科

②ミニレクチャー 1題（担当）脳神経外科

2. ダイアベティス研究会（旧：糖尿病研究会）

日時：令和8年9月17日（木） 17：30～18：30

場所：当院3階 講堂

テーマ：最新の糖尿病治療薬

（GLP-1受容体作動薬・SGLT2阻害薬）

講師：当院薬剤師



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

中央 放射線部 のご紹介

中央放射線部は、放射線診断科医師、放射線治療科医師、看護師（放射線治療専従看護師含む）診療放射線技師が密に連携し、安心・安全で質の高いチーム医療を実践しています。

■ 保有装置（検査種10／全17台、治療1／全1台）

CT装置：3台（診療用64列/128列、治療計画用64列）／MRI装置：2台（1.5T）
血管造影装置：2台（心血管用、頭腹部用）／透視装置：2台（アイランド型、Cアーム型）／その他：一般撮影、骨密度（DEXA）、乳腺（トモシンセシス）、歯科用CBCT、RI（ガンマカメラ）、エコー／放射線治療装置

■ 専門性を担保する診療放射線技師の主な取得資格・認定

高度化する医療ニーズに応えるため、多数の認定資格者を擁しています。

X線CT認定技師／肺がんCT健診認定技師

MRI専門技術者認定者／検診マンモグラフィ撮影認定技師

画像等手術支援認定診療放射線技師／AI認定診療放射線技師

医学物理士／第1種放射線取扱主任者／医療情報技師／診療情報管理士

地域の医療機関の皆様と強固に連携し、患者さん一人ひとりに迅速・正確な画像診断と高精度な放射線治療を提供してまいります。ご紹介・共同利用を心よりお待ちしております。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

9月

科 名	医師名	不 在 日	科 名	医師名	不 在 日
内 科	桶 家	18日	精 神 科	長谷川雄	11日
	野 村智	1日、29日		陸 田	1日
	水 野	24日、25日		仲 間	11日、25日
	得 能	10日	皮 膚 科	大 石	3日、4日
	川 端	4日、25日		町 井	18日、24日、25日
外 科	宮下知	29日	脳 神 経 外 科	山 野	7日、28日
	佐々木	9日、10日		垣 田	8日、9日
	羽 田	2日、4日	呼吸器・血管外科	土 岐	10日、11日、15日
	加 納	4日、25日		山田芳	7日
	濱 田	14日、16日	眼 科	上 田	7日、9日、25日、28日
泌 尿 器 科	新 澤	2日		野 口	7日、24日、25日
整 形 外 科・ 関 節 再 建 外 科	重 本	11日、25日、28日	歯 科 口 腔 外 科	石 坂	9日、10日、11日
	岩 井	24日		服 部	18日
	羽 土	10日	小 児 科	和 田	30日
産 婦 人 科	津 田	18日		仲 岡	14日
	布 村	29日、30日		今 村	28日
				中 橋	18日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112(代)内線2168

編集後記

つかもうぜ！ドラゴンボール！

日本中が熱狂したアドベンチャーは次世代へと引き継がれ、我が家の息子も夢中です。本日は関連グッズを手に入れるために奮闘する、令和の親の姿をご覧に入れましょう。

まず、昭和の我々が親の買い物に同行し、シール入りお菓子を1つ買ってもらう。そんな時代は終わりました。令和は黙って買占めです。何なら子は来ません。家で呑気にYouTubeです。そしてシールを冷蔵庫や柱に貼りまくった時代は終わりました。令和は黙ってファイリング。決して汚さず折り曲げず。最後に、レアグッズ販売日の確認は怠ることなかれ。即日完売。長蛇の列。負けられない戦いがそこにはあるのです。こうしてまんまと踊らされ、散財し、世の親は今日も仕事に励むのです。では、みなさま本日も頑張りましょう。

ふれあい地域医療センター 新井 恵美



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112(代) / FAX 076 (422) 1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> / がん何でも相談室:メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

